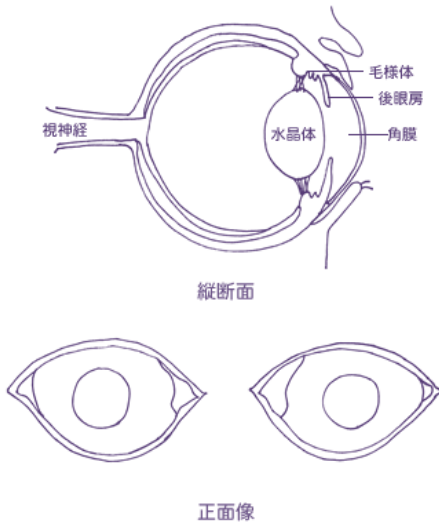


「犬の眼の病気」 Q&A

鳥取大学農学部附属動物医療センター 獣医神経病腫瘍学分野

准教授 伊藤典彦



Q 「犬にも目の病気があるのですか？」

A 「人と同じように目の病気があります。」

お散歩の時に草むらに入る姿を思い出してください。
 特にお鼻の短い犬では簡単に目を傷つけてしまいます。
 近年、犬も天寿を全うすることができるようになりました。
 私達は長く生きると高い確率で白内障になります。
 同じように、犬でも加齢とともに白内障の発症は多く見られます。

Q 「犬にも見る力は大切なのですか？」

A 「人と同じように見る力は大切です。」

よく犬は臭いを嗅ぐ力が見る力より大切だと言われます。
 目が見えなくても大丈夫だと言われる時もあります。
 でもこれは正しくありません。

決して見る力が弱い訳ではありません。

犬は人より臭いを嗅ぐ力が強いだけなのです。

遠くに見えたあなたの姿に喜ぶ姿を見たことがありますね。

見る力は臭いを嗅ぐ力と同じように大切です。

Q 「最近目の中が白くなってきました。病院に行った方が良いですか？」

A 「できるだけ早く病院に行くことをお勧めします。」

犬も年を取ると水晶体が白くなる病気、白内障に必ずなります。

白くなった水晶体は手術で取り除くことができます。

できるだけ早い方が手術の成功率は高くなります。

白内障を放置すると、ぶどう膜炎や緑内障になる場合があります。

白っぽくなって来たなど感じたら、まずは一度ご相談にゆきましょう。

Q 「部屋では元気なお散歩に出たがなくなったのはなぜですか？」

A 「ものが見えづらくなっているのかもしれない。」

お部屋の中で飼っていると見えなくなったことに気づかないことがあります。

犬はお部屋の形や家具の位置を覚えているからです。

お散歩でも初めての場所で見えないことに気づくことがあります。

昨日見えていた目が急に見えなくなってしまう目の病気もあります。

どんなに小さな兆候でも見逃さず目の病気に気付いてあげてください。

Q 「よく見られる目の病気を教えてください。」

A 「特定の犬種に多く見られる病気があります。」

柴犬に緑内障、ミニチュアダックスに網膜変性、シーズやパグに角結膜炎やドライアイ、アメリカンコッカースパニエルに白内障が多くみられます。

これらの4犬種ではおかかりつけの病院に相談してみてください。
この中でもできるだけ早く見つけてあげたい病気が緑内障です。
緑内障は目の中の圧力が高くなり、見るために大切な細胞が死んでしまう病気です。
人では目の中の圧力が高くなると頭痛や吐き気で立っていることもできなくなります。
犬は痛みに強い動物なので目の病気が我々が見つけてあげなくてはなりません。
目が大きくふくらんでから来院されることがあります。
もちろん、その時には目を助けることは難しくなります。
瞳が開いていたり、白目が赤く充血していたらそれは緑内障のサインです。
目を開けたがらないときも同じです。

最後に

目の病気はちょっとした兆しから我々が早く見つけてあげましょう。
我慢強い、もの言わぬパートナーだから。
とても大切なパートナーだから。